

令和7年度

第1回加賀市健康福祉審議会高齢者分科会会議録

日 時:令和7年11月6日(木)午後1時30分~2時35分

場 所:加賀市市民会館 大ホール

出席委員:◎橘、○山崎、瀬戸、山本、山崎、澤田、打田、東田、中屋、中田、鈴木北出、上出、蔭西、宮下、西畠

(敬称略・◎会長、○副会長)

次第

開 会

部長挨拶

役員選出

議 題

1 第10期計画策定に係る調査について

- (1)健康とくらしの調査について
- (2)在宅介護実態調査について

2 認知症予防プログラム多因子要因介入研究について

3 サービス給付実績等のモニタリング結果について

4 地域密着型サービス事業者の指定(更新)について

閉 会

議事要旨

議題1 第10期計画策定に係る調査について

- (1) 健康とくらしの調査について 資料1-1
- (2) 在宅介護実態調査について 資料1-2

質疑応答 特になし

## 議題2 認知症予防プログラム多因子要因介入研究について 資料2

### 質疑応答

山崎副会長： 1ページ下部の健診有所見状況(血圧・HbA1c)の値が 40-64 歳では県の値よりも低いが 65-74 歳では県よりも高くなっている原因としてどんなことが考えられるか。また2ページの上部で 65-69 歳、70-74 歳では第 1 次参加自治体に比べフレイルの割合が高いが 75 歳以上では加賀市の方がフレイルの割合が低くなったのはなぜか。

山本委員： 加賀市の 40-64 歳のもともとの健診受診率が少ないことが原因ではないのか。

事務局： データが国民健康保険の方なので、加賀市では 40-64 歳であると自営業の方が中心になる。65 歳以上では退職後の方が含まれる。そのため県全体のデータと比べると背景が違う可能性がある。

橋会長： 健診受診率は、加賀市が県の中で低い方だと思うがデータはあるか。

事務局： 後ほどデータをお伝えしたいと思います。

鈴木委員： 加賀市の高齢化率から考えると 65 歳以上だと県の数値に比べて悪くなるのではないか。

橋会長： 病気のある人は多く受診している。健康な人はあまり受診していないので割合が高くなっているのではないか。フレイルについては、74 歳以下では加賀市の割合が高いが、75 歳以上では加賀市の割合が低くなっているので、加賀市の方が健康であるという解釈でよいか。

事務局： JAGES(日本老年学的評価研究機構)の 健康とくらしの調査に参加している自治体の中では 75 歳以上のフレイル割合が低いという結果になる。

橋会長： 原因に関しては他のデータが必要だと思うので、今後解析して今後に活かしてほしい。

蔭西委員： 事業は 2 年間の実施ということだが、2 年後は一旦終了ということなのか、継続する場はあるのか教えてほしい。

事務局：研究事業であるため2年間は継続だが、終了後は事業継続していくことは大切だと考えるので、令和9年4月頃から事業化に向けて検討して行きたい。

蔭西委員：地域型の元気はつらつ塾と重なる部分があるので新たな事業を作るのか、既存の事業を活用するのか検討してほしい。事業ばかり増えても参加者が分散してしまうのではないか。

議題3 サービス給付実績等のモニタリング結果について 資料3  
質疑応答 特になし

議題4 地域密着型サービス事業者の指定(更新)について 資料4  
質疑応答 特になし

その他の質疑応答

鈴木委員：第1回の分科会で介護人材の確保について議題に挙がっていたが、奨励金、IT化支援事業等に予算がついて人材確保について取り組んでいると理解した。事業所としてはすぐに雇用につながる施策を実施してほしい。実際に事業所の雇用に直接つながるもの、つながらないものがあると思うので雇用につながった実績を次回示してほしい。それをみて予算の増減を考えることもできるのではないか。

もう一点介護人事確保について、前市長、副市長に数か月前お伝えしたが、病院や介護施設は小売店等と違い社会資源である。そこに働く職員も社会資源である。人材不足で事業所が十分に機能しないことが起こってくる。人員配置基準を割らないための人員確保が必要。そのために事業所と行政が一体となって考えていく必要がある。この件は新しい市長にも伝えて、直接早期に介護人材を得られる仕組みを作ってほしい。

事務局：市側も人材確保は課題と感じている。新市長と順次ヒアリングを行って、介護人材不足について報告している。事業者協議会の声も聞きながら進めていきたい。他市からの情報収集も行い有効な策を検討し、具体案を提案していきたい。

人材バンク、派遣についても前市長、副市長から聞いている。福祉分野だけではなく他分野も含め全庁的な課題として捉え検討している。進捗を報告しながら皆様の現場に実感してもらえるように取り組みたい。

蔭西委員：事象者協議会の中でも介護人材確保について課題と感じている。協議会の中でも皆さんのご意見を聞きながら行政と一緒に進めていきたいと思う。

鈴木委員：介護分野以外の分科会参加者にもわかってほしいので伝えるが、萌和会はハローワークからの求人は1件もない状態のため加賀市独自の人材確保の施策を考えてほしい。人が見つからないだけではなく、派遣や照会を利用すると、派遣であると割高で、紹介だと高額な手数料を払う必要がある。多大な経費がかかり、経営を圧迫することになる。

澤田委員：事業所の人材不足は話に聞く。現在、外国人を採用している人も増えているという。外国人は各事業所に何人雇えるのか決まっているのか。働きぶりは日本人より懇切丁寧にやっている人もいると聞く。雇っている人の話も聞いてみたい。

宮下委員：篤農会では、外国人の働きぶりに大きな問題はない。高齢者も外国人に適応している。トラブルもそれほどない。日本人職員の方がトラブルを起こしている例もある。

澤田委員：文化の違いの心配はあったが、雇用している側が満足しているのならよかったと思う。外国人が日本に来るのにどれくらい費用が掛かっているのか。

宮下委員：宗教的にも高齢者を敬う文化があるため、日本人より高齢者を敬っていると思う。虐げられているような事例はなく概ね適正に運営できていると思う。入国費用は会社が持ち出して払っている。日本に来るために借金をしているという例は聞いていない。

橋会長：事務局は次回人材確保の補助の実績を出しまとめてほしい。

山崎委員：第10期の調査。質問項目が非常に多い。調査対象者にこれだけの量の質問をして答えられるのか。もう少し絞れないか。

橋会長：内容をまとめてわかりやすくすることも検討してほしい

宮下委員：今回の健康とくらしの調査の回答率を教えてほしい。

事務局：返信は 1924 票回収した。前回は 2005 票で前回と同程度の回収率で  
あつた。

事務局：先ほど話題となった健診受診率は、加賀市が 41%、県は 43%であり大きな差は見られなかった。年代別では、40 歳代 15%台、50 歳代 20%後半、60 歳代 45%台と年齢が高くなるほど受診率が上昇している。

閉会